

ラン科帰化種アメリカモジズリ *Spiranthes cernua* を名古屋市に記録する長谷川泰洋⁽¹⁾ 梅本 洋子⁽²⁾⁽¹⁾ 名古屋産業大学大学院環境マネジメント研究科 〒488-8711 愛知県尾張旭市新居町山の田3255-5⁽²⁾ 花水緑の会 愛知県名古屋市緑区A new locality of *Spiranthes cernua* (L.) Rich. from Nagoya city, JapanYasuhiro HASEGAWA⁽¹⁾ Yoko UMEMOTO⁽²⁾⁽¹⁾ Nagoya Sangyo University, Graduate School of Environmental Management, 3255-5, Yamanota Araimachi, Owariasahi, Aichi 488-8711, Japan⁽²⁾ Hana Mizu Midori no kai, Midori-ku, Nagoya, Aichi

Correspondence:

Yasuhiro HASEGAWA E-mail: y-hasegawa@nagoya-su.ac.jp

要旨

2022年9月12日に名古屋市緑区大高緑地において、県内初記録となるラン科ネジバナ属アメリカモジズリの野生化個体が確認された。本種は2017年に滋賀県大津市で初めて野生帰化の個体群が記録された帰化種で、2018年には富山県魚津市でも確認され同生育地では顕著な増加が確認されている。名古屋市内の生育環境は、イヌノハナヒゲ、ヌマトラノオ、サワヒヨドリなどの湿地性植物やメリケンカルカヤ、アカマツの幼木などが見られる湿性草原であった。ラン科植物の帰化種は珍しく、また湿地や湿性草原で確認されているため、今後個体数が増加した場合には希少種が多い湿地性植物の生育を妨げることが危惧される。今後の増加に注意を要する。

背景および確認の状況

2022年9月12日に名古屋市緑区大高緑地の湿性草原において、孤立した未開花のラン科植物が1個体確認された。9月26日に確認した際にはまだ開花していなかった(図1)。10月10日には、展葉してくると共に開花し始め、ネジバナ属の特徴が確認できた(図2, 図3)。10月21日に再度確認したところ、開花しており(図4)、草丈45~60 cm, 少数のロゼット葉、葉は無毛、花序に腺毛を密生、花は白色、中央萼片と側萼片はお互いにほぼ接するなどの特徴を有していたことから(Sheviak and Brown, 2003)、アメリカモジズリ *Spiranthes cernua* (L.) Richardと同定した。

本種は、2017年に滋賀県大津市のため池に出来た湿性草原で数百株の野生化個体群が国内で初めて確認され(藤井・川北, 2018)、新帰化種として報告されたばかり

であるが、2018年に富山県魚津市の湧水のある休耕田で数千株の個体群が確認され、同県では次いで黒部市の休耕田でも確認されている(大原隆明氏私信)。2019年には鳥取県でも確認され(鳥取県植物誌研究会, 2021)、近年各地で発見が相次いでいる。著者が知る限り本種の愛知県及び東海地方における野生帰化の報告は初めてである(愛知県, 2018; 愛知県, 2021)。

富山県魚津市の生育地では、確認後の数年で数千株から数万株にまで個体群が拡大しており(大原隆明氏私信)、この地域においても個体群の拡大、生育地の増加が懸念される。本生育地を2023年11月24日に確認したところ、数十m離れた場所に新たに開花した5株が確認され、結実も確認された。標本は、なごや生物多様性センターに寄贈した。



図1 開花前の花の様子（2022年9月26日撮影）



図2 開花し始めた様子（2022年10月10日撮影）



図3 開花個体と周辺環境の様子（2022年10月10日撮影）



図4 開花の様子（2022年10月21日）

生育環境の特徴

名古屋市の生育地は、緑地内に造成されたグラウンド横の斜面地であるが、地表に湧水が滲み出ており、その植生はメリケンカルカヤ、ススキ、アリノトウグサ *Gonocarpus micranthus* Thunb.などが多く、滋賀県の生育地と同様に湿性草原である（図5）。土壌には礫が多く混じり、一部にイヌノハナヒゲの個体群も見られる様子から、尾張丘陵によく見られる湿地の植生遷移が進んだ場所とみられる。本生育地から斜面の下へ10 m程度離れた場所にはサワヒヨドリ *Eupatorium lindleyanum*

DC. var. *lindleyanum*, スマトラノオ *Lysimachia fortunei* Maxim.なども多く生育していた。反対に数m程度斜面の上の方にはアカマツ *Pinus densiflora* Siebold et Zucc.などの木本類が生育している。富山県魚津市で湧水のある休耕田で確認されていることを合わせて考えると、本種は、湿地から湿地周辺の湿性草原まで、幅広く生育可能と考えられる。自生地である北米東南部では、開花は8月下旬～11月で、フロリダを除くほぼ全域に分布し、標高0 m～1,800 mの湿地や湿性草原のほか、河川敷、湖畔、海岸、沼地、開けた森林、草原、墓



図5 生育環境の様子（2022年10月10日撮影）

地、道路脇、芝地、牧草地、砂丘などの湿った場所から乾燥した場所まで様々なオープンハビタットに生育している（Sheviak and Brown, 2003）。これらのことから、本種のこの地域における生育地の拡大が懸念される。

繁殖特性および分布拡大のリスク

本種は有性生殖を行うが、無融合生殖によっても結実することが報告されている（Schmidt and Antlfinger, 1992）。また、既存の観賞用に導入される外国産ラン類の多くが亜熱帯～熱帯原産で帰化種が少ないのに対して（太刀掛・中村, 2007）、本種は温帯産であることから、野生化が拡大するリスクは高いとみられる。名古屋市内での確認は、今のところわずかであるが、今後の動向を注視する必要がある。

証拠標本：愛知県名古屋市緑区大高町文根山 大高緑地（採集者 梅本洋子 s.n., 2023-11-24, NBC-NP16040）

謝辞

本種は、なごや生物多様性保全活動協議会・里山林社寺林部会の事業の下見に訪れた際に見つかった。調査を共にしている部会メンバーにも感謝申し上げる。また、富山県中央植物園の大原隆明氏には、同県の生育状況をご教示頂いた。ここに記して謝意を表する。

引用文献

- 愛知県. 2018. 愛知県の生物多様性 グリーンデータブックあいち2017 維管束植物編. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋. 352pp.
- 愛知県. 2021. 愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち2021, 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋. 217pp.
- 藤井伸二・川北 篤. 2018. 新帰化植物 *Spiranthes cernua* アメリカモジズリ（新称）を滋賀県大津市に記録する. 植物地理・分類研究, 66(1): 75-78.
- Schmidt, J. M. and A. E. Antlfinger. 1992. The Level of Agamospermy in a Nebraska Population of *Spiranthes cernua* (Orchidaceae). Am. J. Bot. 79(5): 501-507.
- Sheviak, C. J. and P. M. Brown. 2003. *Spiranthes cernua*, Vol. 26, pp. 532-542. Flora of North America. http://floranorthamerica.org/Spiranthes_cernua, 2023年11月20日確認
- 太刀掛 優・中村真悟. 2007. 改訂増補帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会, 庄原市. 676pp.
- 鳥取県植物誌研究会. 2021. Web版鳥取県植物誌. アメリカモジズリ. 2021年1月10日公開. <http://floratottori-trial.seesaa.net/article/479459468.html>. 2023年11月20日確認